

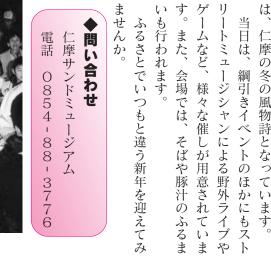
-年計砂時計「砂橋 2 m、砂の量 1 t) 「砂暦」 世界 の (高さ5.2m、

仁摩町天河内にある仁摩サンドミュー 毎年大晦日に年越しイベント

新たな年の門出を祝うもので、平成2年 の大晦日から行われています。 を新年の訪れとともにぐるりと回転させ のシンボルである一年計砂時計『砂暦』 こ の このイベントは、サンドミュージアム 「時の祭典」のメインイベントで

集まった新年の年男・年女108人が砂 計を回転させます。 時計につながる大綱を引き、巨大な砂時 ある「砂時計の回転綱引き」は、公募で また、 砂時計を回転し新年を迎えると

同時に、 の空に大輪の花を咲かせます。この光景 およそ800発の大花火が真冬

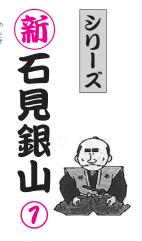




回転綱引きの様子

矢滝城跡は、

日頃より地元の方が



新たな一年がスト

年越しイベント「時の祭典

矢滝城跡からの眺望

跡」に登っています。 西田にまたがる中世の山城 標高は、634m、360度のパ 私は毎年、祖式町矢滝と温泉津町 「矢滝城

ので、いっしょに草刈りや枝打ちを が登山道や頂上の美化作業をされた して良い汗を流しました。 今年は10月中旬に、祖式町の方々 ノラマ。

戦後、この山の頂上にアメリカ軍の 500年間が思い起こされます。 例えば主郭や堀切の跡、 集落へ山越えし通った方々もいます 中継基地があった頃に食料や水を運 石見銀山の全体を見渡すと、戦国時 できました。 道などの話で「生きた」歴史を体感 んでいた方、ひと山越えた隣の西田 作業後は、当時の山城跡の風情、 から第2次世界大戦後までの 参加されている地元の方の中には あらためて、頂上から 古い往還の

> します。 をとらえ、登ってみることもお勧め は最適です。また、このような機会 日常的な管理をしておられ、 登山に



が走る。 から 点としたと記されている。 戦国大名大内義隆が銀を産出する仙ノ山 文献によれば、享禄元年(1528)、 一里ほど南の矢滝城を銀山防備の拠